

教育内容・方法

全研究科

C E T Lを設け、各種講習会、個別学習指導、教員対象の見学会、授業公開、授業ポートフォリオの作成が行われ、その成果も公刊されている。

ただし、FD活動は、教員の問題意識の向上を促すためには重要であり、教員の参加に個人差が見受けられる点を問題として把握していながらも対策がとられていない。教授法の改善などについて、全体での問題意識を共有し、より積極的に取り組む必要がある。

教育研究交流

全学

大学としての国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針、目的が明示されており、国際部および研究開発国際連携推進センターなどを設置して教育・研究面での国際交流の推進を図っている。また、交流提携校も多く、アメリカのカリフォルニア州にアメリカ創価大学という非常に密接な関係の大学もあり、学生の多様な留学目的を満たすために、種々のプログラムや渡航先の大学を用意している点は評価できる。さらに、国際ボランティアプロジェクトの単位化、北京事務所の開設など、大学独自の国際交流事業が行われており、英米圏に加えて中国やロシアへの留学生の割合が多い点も評価できる。

学位授与・課程修了の認定

全研究科

学位授与に関わる審査手続や一般的な要件は大学院学則や学位規則に定められているが、学位授与のために必要な業績などの実態的な判断基準が明記されておらず、あらかじめ学生に明示することが必要である。